

戦争体験談

中林 信治（大正9年生まれ）

私は昭和15年の徴兵検査で、乙種合格になりがっかりしましたが、12月末に赤紙の召集令状が届き、これで人並みに国の為に奉公ができると喜びました。令状の内容は、1月10日に仙台の軽重隊に入隊せよとのことでした。早速準備にかかり父親に同行してもらい入隊いたしました。同日から他の19名の新兵と共に約1か月間軍事訓練を受け、しぼられました。

いよいよ配属も決まりました。中支派遣鏡第13師団通信隊です。出発は2月10日、大阪港を出港し、揚子江の上流の最前線宜昌に到着以後、各地に転戦する事約四年半、湖北省、湖南省、広西省、貴州省の作戦に参加。昭和20年8月、ソ満国境に向けて急反転、行軍に移ったが、8月17日、行軍中に日本の敗戦を知らされる。全将兵ただ茫然となり、声無し。

この日から日中行軍となる。これからは揚子江に向けての日中行軍となる途中の要所要所で武装解除となり、大変身軽になった。幾日歩いたか覚えていない。ただ無心に歩いた。ようやく揚子江の右岸の町湖口に着いた。湖口の港に近い村落の農家の納屋や空いている部屋等を借りて、帰りの船を待つことになる。農家の人々の優しさに頭が下がる。我々の上船は何時になるのか、先が見えない。心細くなる。ところがこの地方の稲の取り入れは、これから12月末までかかり、大変多忙になる。人手が足りなくて困ると聞き、早速若い兵隊と相談して、手伝いを申し込み、毎日1軒に、2、3名割り当てて協力しました。この手伝いは三食付きのため、留守居の隊員も大助かりでした。情けは人の為ならず、でした。

正月には農家から餅などを貰い、思い掛けない5年ぶりの正月を味わいました。この頃から一部の農家から若い隊員に日本に帰らず我が家の養子になってくれないかと言われた兵隊が2、3名いたと聞きましたが、実現しませんでした。農家の住民に色々とお世話いただき、ありがとうございますと厚く御礼を申し上げます。

さて、いよいよ湖口港から南京港までの間ですが、湖口地区には上船を待っていた他の部隊の将兵も含めて800名程おりましたが、5月20日、乗船する兵隊を港近くの広場に集めて中国警備隊長の少将が、訓示された。通訳を介して「君たちは今後、中国に来るときは良い品物を売りに来て、帰りに中国の良い物を持ち帰る等、良い隣国の友として来るなら、いつでも歓迎する。また、無事の帰国を祈る」と大国の賞禄を見せた。

その後は船で南京まで行き、南京から上海まで貨物列車で送っていただいたが、途中2回ばかり急停車して、私物検査を受け、高価な物を持っていかれた。特に毛製品等が多い様でした。また、船の都合がつかなかったためか、上海で20日ばかり小屋暮らしをしましたのも思い出されます。

終わりに、日中戦争は何が原因で始まったのか、また、どうして中国全土にまで拡大したのか、私も大変迷惑をお掛けしました。おゆるしくください。これからは良い隣国として共に繁栄する様に期待いたしております。